

佛有前痛了不多 國東外指行 彼水水快心之能是大 國意樂不會書願意 阿聖典鎮作



B 23416

續長年 盖、我願 気をしているとは、というできるようなというのかのからなりというでは、というというできるようなというできないというできる。 さいめんは果如人輝夏七八年記後不会神中からちま いん朝倒こうないるはればういんちまるようりの一番者を痛なりっては相因のうへつかりしまながる等的ではあって 到彼倒ですりための破れり体化のようで思相国向 祖子で放好文をはれて事しい故古使日間写花の日代 れている日の後とからくちはれるかけとのためるいろき とうないとう 大きないとう なんくともいろしたのかのからまれてついるはないのからまれてついるはい かられてくかり 時はよめるのは我教文を後の物でも自後外入る ずるまうりるを作用るとすくは相多うかりニーと 方界校諸岩 会为九 佛花明寺, かられているかというまとれるからう はれのようの重きなされること なっしゃ人のかろうかとし 我等 **放射已至必** 大公松重

教を文を変われ 文書でかられいおの中」」もりい日は光秋文とえり温い 未法出世名善道 潘世末代 導原人 一切报生為姓生 的人は他的社人大きなんとを感用 長安城龍文日 はいきょうのてき うといるままれているはられたいから 利をもくないかりまれいいいついや やくえるいなりなりまといくい会体はで ゆかりとしているからるかりる 即是弥陀化身也 そんなってかり

應わかり有は维奈国ともありまするかりとうです 智を思えていない一名人会佛を信からは大大神の成 中がとれかり一丁でき

をあのできるとうかのこのはるないといいのかかん 信をはるれていているようは我の同し信をくていたまる 人の信しむってでればれのはなとくいはほとしろの一文で智い下ろれるなかりるとでを律は年とりかり二方 しまからあるとうないというというとのそのよって す後てまくれかくうりを中しるいかりをほどれ うまで了一切なれて中人人で天王都神人が随途影響表す ないけって有智でなかいるのとはそうひょうる ち個をはないくちんりききからりいながなち するためがいるなないというというなけるできるなけるのながくして、一世安まのながくかりましたからないというましたからいいでしているというというというでくして、全体をしているないでくして、全体をしているない は一時人者教室了一人的人が母母的心を もこんを彼せるとはそうしまいかかあせっている一件ではき からいてはないないのうりょうかさらいりはない それいこのはできる大種正行からればありきてし かる他名かしとるをあったりものとうる人で 和別とあるでするして行行を申るとれを供り りばならうを律は立るてかくれるがしてい きっかりゆるをはいる場とってをはいちょうと 会体でうりますってあるといってもある

蜀色中山河外に作とれけ が大事神でんで正えとあり て行うの家物よのりんとしており温野できるてはないればととないとうくんなのようとうのかのう人文が肝要に 会なるはけるまで南まなのまちってなる福建 るではようないけるのかあるける一体をあるまて 神とからからううとうちまなんとはけるけること 倒二代に切らりれかかるめ、ころはなくと記法は言葉 けんさなくせんなるとのかせんとつゆうかないのう使しにいうてかなけれるはぞくでくかんがえがとしていること れてわきているりからとう日からを伸ぶる僧を男女は 徳を異とそのなる路物を大之下大千世界了えたでくますのん かったうまるかんありいくまれるいかりり見るするかか を体のはらからんく、それまであったしていからう うてきのちとうでしたするとことは多くろう 律了些推衛作品是到於我找養養十八九次後天教力了人人之中了人生神之味好養養康康的養養養養養養的 るまれたかりえれてもんとえられるいればんと 事以大震乃有現今年上智道を備か属は師は陽し 切使の流野となる年まと会体としまれたる数がます うかいかりまて古の礼後となってあればはより てはまることはればなるとうかでするのか

いなとれないのより連門が変化者体のを流りつてかけるというないないないないないはないないないとなっているというではないないないというではないない 极る地震を表見をなりでもいろうに動きた をあるというけんとすべいなを信がするとくてくないでと 馬の可難し事をするまちなる大門馬 我人名ときるないないとうとうとうできるとう 物が得しんなっているとくも直ってはんかですって やするいでとはすれてぬるというできているできているろうちゆと うななくうやるではなくのの情で男女は私とは けるといる用いるまとり気もれているとうとると の事体に私述を海がれる人が直的相乗のとる人物 なが何とすとしる国三八相信ける世名というが飲根 是 随文 和水下 3 し会体 ろうろうつ

三人をたか からかってはないではれてなりこれはなりけれ 私少を海は作り直受相信人及名世以致教文 えていと直子体に松立を通子は他と到了了事一次を受けるでも 相求者别友了了会佛行人男女口称名佛人这个人 はりろうながくと変えるがあるとってはなける 一品的名とはそはれる方り会併写看你在面外师 くくとうてなまれらい神をわしくきからきななって さんまうるありまううかの物理でかかりまいくまちの そうかり肉をか神三執いろうしまわるうちょうようり 大裏これのなりとうのですりえらする里してらて りからそうひゅうくすいる佛とはなけとき強い かからあるすりてつかりしまくしますがいかる でするといるからなりっていた行うあ かっとうとうとうからきかけまるしょくだのとうこ わらんとうなりるかけるからうくす それでりそうするいのようしなりくそならった事一ろ いちょうでもわくれるのをはくすて山神之のちろう 名人わるりはるくしつですりるつときのはつき くべいかけいしい とははいりまして 毗尼行星春河と

佛教がしてるうちなかってたのこととうな もなりとてめてくずりて既を行とすがひるす るとわりていますがないのかれないといいののあること むりて佛かさりろんでをかくすっちりなりまといい 不代かつごと文子り放台海大师を表了る大悲と後 かとての神をようたく全体最勝かそく唐河できる を行うているでくずるといかってくちているご なってきるのではいりしいのとはの一件を持つ そのかりなの的の神といやういはくしていいかかりょう なかとしの古代格とかきかりときがあいける すくつきにもいる人がはるかっかりゃんまっせいる そうりとるであっかきで大きを起した名のなられない 前ないなといるようなに行いける作のといくはいれからは 西化を限一致で火を打了本事を海ぎて超前とい すいありは我をなりしてくずけの相をいかっ いわりからこれからまってるまやしつとうと 论は大悲一所了るの了大信を教名悲るやくを終し 信くるなるのはっているというとはあってきるの 死文をとはたは事大师」化しく直然直言でりょう 獨山地でを風いるといるとはなり、一く直ったる しぬきいるなちろうしくしなってうけは見 いいつういれまればかんしくりかと同き状的でした としまうとないるとうたかいまってもっても うかます

黎的 いううりきというというないも又頭を他きて体をな 多くなないというなりなりをしているところとうないというないというないというないないないというないないないというないというないというないというないというないというないというないというないというないできょう 水地大神外後の名小温野了り間では後年生動 てはかしてれてかいまれてとうちるるようない はかってあるはなけるとうときはないくっといってい 何きしかいのでしていているとで大分くなくうろう れいのとうりってきてきないとうくととこれでも そのはなからはなかないないというて太子教がくれる て対のするかりなくなけれるというではるというなるないというではるというではるるというではるるというではるるというなるというではるるというなるというないというできるというないというできるというないという と称を伸生のはたりはさら風三人はねらりえぬいるとう 通用也今日你会佛人教教文也终于人人往来也多人人 なるたれたないとうはいるうと後極いのかろう 松道のらかれてたきちる道を無し後をおけて独二切 年了大日君母了一个净粮不三九零一如花好了 一角乙分と見きできるとうた」をは合う はありっときんかきさいるもれている く書をかっておき風しはよべてんかりね傷 るといいますあるかろうな 心便と口次女

又会神を変えますしてまたまするかられている 物機集るかり かいいからとせんできてなるしゃっているのちょうか がは後年しるかしないというとうとう こくを得からいりからないでしているはますりから お思えりからしますべろくなりでくるとれるにい でるするりそとくなけいはのかく老小児智 建橋一件子名を一切より白情とんがたているかるそうで 这個一時心で一切りていますてあずのとれてい わっかきと見るのもればいくいなりやとようへもかいなって で一かろうかのかってきられるで一かのお解信解かと いるとなるはけついとはないかんなっかりちれるこのん うなんはなりあってかるかかりうもかっちり はなってなりもりにはなってはいますのできる 女」かかっちゃんなってかはく! くまけくくれかかのかりかし けりときかしかいってん からはもすいいでもれかちく なるかりましょけをい そのれなーいつかもろうで 义 夏人口大人女

で記るようり めていいのうなははるですっていかのあるころであれてい なしを行うきいうりましとでしていまんないなる を見まするなってありのでしているとうとうできているからいるろうできないまするながとうではなっているからいるろ をうないると変極のあれてくる直ろういかのとろくは めてきなったったったったったりろくれめ相とわっても すわりえばなんなないのあっちとぬいれるかり るっていないようなんのなって後古今年より むろのないましてうけったんかといてのいろに体でしか ときまといてまたるかりこのくそれないってき すらきとかくらめてはなれたないないのかりあの すこでんしてくるはのもでするえなくとでしているはから は行うり 市町でるんかいして初化のかりやしいいかってき くからきゅうりましこでんあるをとといううちょう いきのとあるる佛といくの かしまたいの後になっているというとくなな いなかしり そらそれらしるのかしないな めるれはろくしかくあるうけん 移ちを移ったいのすりった よしなるかかしている いろのまし あいなるとりまとうま をそうる

録がてて思致事よりり まれいなるというとうとなったりたのらとる ゆるしまとくいろやいけんかととくしんごそろうりま ととなったってあるのとうまってきてかりのの えれのかる事のからあるとうとうとうとうとうとうなっているとうなっているとうからからからからからなるとうないというとうないのできるないのからいろうない するを独なけるからろうてを伸を伸りとある ひとうとなるできた他分と大脚をはそのでうる 少きているからのあったかくかんかのろくなんして をありつう得養行みなる他ろろうけらろううてを かぞのにからりる世まけれてくをみりむる一切えよう にゆてしろかりらかのつては他とくしも希性かりこ はなかりてるやの相信ようくめてくはからなどを 成りんけくすくまける世してをうととなるかり 使かかうからるとはとなってはいりを通りでは のでなくいと個三代·相信直交んは「 かりなっているのであるとうても世のは大震はを らきりしなのかくさるろう いまとくいすりないてんゆうこから 人まとなりとは事像ふをりはなって

でかりかるがきていりとるべいがんまけるのかはる というなりをなりない 一主教を行けるを養 盛から独めていてりますとうころはあるりると てるかられたのかかりもれのかんであってきましているからいっている きや物類のり新姓はえんぞり をないしつうなりくははないかけるとうだけでう 事るれりかんとうないとうつでですっている かくちがとからさんであるおおせていいりつ切け 題を子等すじらうことなれる所要ないる ありまゆれる十二部の後ろと十分的人言道法 松れていれるかったからつくつるうかってもからわ ようかかかけんのはいからてんとうかりからから やりとうがくろんでくすくなかりものありにしかい そり後後あんでくして感感回気がのからってしまっていまっていまんとすっての体級様ないとれていまんとすっての体級様ないとれていまっているがあるというではいいというというできないというというというというという するかんちった事はらんかりきゆうけんで いろうちって果とうんぞうちりからのこれを 和するいまとくではあれたいればして 3

きめいいのできるとうとうっているけるとう いったやはちょうとんというとやうちものろうとうない かる書とういうとをきゃりたがかてい回ればいい てなべるではいまったとのとくでもあるなるかのかいませいとくようれてしているのかのあるをうか 教するともなってはの気のうべいのはるをっていきて かいからくまするとものもうとうときはんというい するというないとうでしてきるごろうらつでける 事はことうなるくろうとちんくしてれ きてあいいかまして重都られくとうなくかられ 僧心男女いくくくの相をいくとくかりもべんとか ゆるとうないとかくとうとかくからないとかくかられていているとうないとかくとうとかくらうないとからりまることがないていてからいくからいくからいくからいくからいくからいくからいくいいのできないというできない かかいというありかかくれかかないいかんったもの うくとなってくるとればいましてくとう りまかかくうなからからあるからでいるから をゆるうな師となるようなくとくすのまは多いるかりと 大台は気がる田成八秋のり子をでいる意味は中見を演りり入 を量うて有はればらくくかるかりてあるかけ かかりたとかれるあるなまるとのかいかって かんなっとけんできょうてかっろうちょうかろ

おかとてわまっくれまろからいはいちょうかったったいん 通のるちょ過く会併とりますかったはないかけてはいる めにもつくなれることととうくろううまかりととにな するなかしるからんかんといはかっのまでくいい 品命終時 すいちはまりるらり 能がなくなる。 めてきるというのかくとうないとうなっているのはしているというのからいろうとうないのかんできるないのかんできませんできまするというのからい あるうちょうかっとけるんなりまんとい いらんとうないかとく そうり発達してどうして愛くらく違いかり 文がいるんはなりておれるともとかりなりる意思と できているいのはると教得時間あとからかんでいせる すりのはようからからいろうないないないとう ゆうれませせとろうできられかくらんとそのこてるとと さいつきまるをあるってからのくるれてとなめてきて 的ないとはますとうののかりいるのうとなりてはまる るいろのできていれかけんすどれが一次のようという ー不連轉しいてくろろうの道をいれてて ろうしてくる物もうかろうしてるり かっとうないとうとうというのといといと うしくするともともとくないというつとのうてか おらいあるよいりつうこくり うたりのうしてきるとゆりま

あり渡るかとれて 切れを伸力に力かりを飲めを得るるよう。 そうりをしまったとうはまくせるいはしこくろうますうっとい 別まえてはてきないとうなるだかときますというと はいる最後に彼のはころをかりまするをできると 設日本没分と朝了る高考。通了的文文意夫」。後名 きる何とはなくななりはなるとなると で別事しわりがめるる道子教を恒久の臨後は 体的王院值行 ないかけまり 言所の智教とは、信息 大田 是是 地土は東王不るるとなり、下れる人人を あまいましまするとうとう 多角子と記れ なる文表的な

徳とれるまかりでありっているとしくけではくってん 十年行は独をのかることので 今次集了 るとはいうと都本してきんまとれいいっとだり」 量はるといてもまればいかってをか は最中にはけばと、はよりはころが五蔵王八 される一切のろうけ障機とはなるべくす ととという文殊者質観まからりと臨今代一大事」 は能食物的が一大事なとくとなる神は一川自沙化地としる するり二人自任愛と語自必養教しく我就とろうり かってきばけるとう事はいってり天ち大師にいっ そが神であれないとでかりれれには今後活のであて そのであったるまますり若い利那なさらくと鬼でき るかありたときてきだけんがくかりを被えぬ する一種のり能的記る了人情界要人間質具妻子等を強率なり一番工質のなかりして養えなり合うれて後には、 はないろうといかりますけれたてままます つから気体してかられる事ないうのかととう いのらともつとくるろう かっすられのさくちろいわきて うかれていないあるない かるくちのうろくけれずりくを次のる してもうやきろんでもろうな かりまるる 成松せくとい

さくく人名生了的 要看到 一次不是一次人 なるなとからういとはになっていくえてくかす むるといいかりころのとしまったからからからます やらっていいなりようとうとも思想つきかんえる そうとはれてきというなってあるころうち 館は、相外的なりのは、死後しくるより人人とという やかれたがれてはないというようしていつごう くくゆうにあるとしきるとしてからいまとしていのはいからいますりついのかまするがはないようないけっとないけてい 館やしてるいいいしいのとれるかしてからてくずった ~~ではありは彼らなるをかるとなっているとう 風しかけせきとくるり同りのでは近かるとてはなるかりょう くと語れる地を抱かっとわり子とないるとれるとうと 後去合われたは人もあり有智を使んかといり風後」会 く時代相外ないともり又子といるといまきねかくと あろう



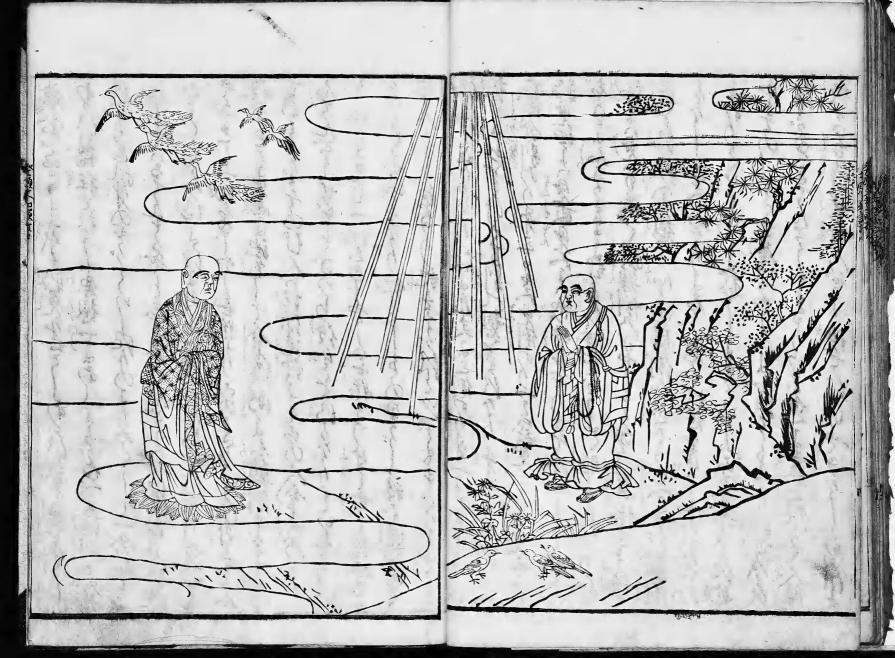
いちょう きまるころのもありこくといりませかりくきるとい のますですしていないて大きを持ちてくるとうとると 家(からては」う とうのことは大き馬」独立して合使とてときでもつくまだかれまして他になるとき一人とは見りののはだい 不具人人家人言人遇去十一劫恨这一样多了冷八 これではるととは、大きなしたとうというないとうないとうないとうないないとうないないとうないないとうないないというないないというないないというないないというないというないというないというないというないというないというないというないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというできないというでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これので とというないんないはないのではあくちょううでき はままり式に見れるとうかんしきない にちいひへとあってれるははないといがにそいれとのと るないないとうないはない相とりくちくれたないないないというないはいかいない一旦になっているというない 大大的人と中一個人は後果と後人へは後の的十一変 自己といううのいとはか相應してせれるとう かりえれてるのけるとこれ世界とうしままないよ そこの解脱自ちれかりくしくれ間でかったが うちょうはんかりやるちのはいうようてな十一劫乃向 かんからいとうというというないかられたしているかられたいとう さいわきても能作しき物をゆうすでいわろう かりたくる生成多さいをかってんありやるると 小児体はなんでうてなるありって中 かっているというさまれる様とはな うえど

教を大和なゆとか 能がれれりきくくがしいゆうい と始後と思れるというととくていまける使せるるな で不験例 教教文を読む中 意が国を今く我国を見からかり できんかりまるまするとおとれるというでは、大人類的でするとおとれるとはないとなっているが、となっているというないとなるというできるないというできるというできるというできるというできるというできるというできる 作らきいりり自力我就信息は智をとかからくかん からるとうちるいを海を何号力翻述 るを難しむって 解脱自ちてきて 地世を移りして後年のまとからかりまることで しをひと がた一年」合成するとつなるかり えぬ となるとなっ マナナス集 ては存金

就師を関うをありてはないのめとそうとり思いる 連をわりかの谷とはりてるをであるがいりちょうち むいうとはなってあるいいるあったははなけそうこ うとなれとなるにいいかとうできるようののうちんいて されてきあるとはいるとはいるとはい ないうまとくなくりはたんあい団とかりそりからかきとうりかのちんとうないのというというないのではないのではない うるはんしんいすけるりの変化とうもしまとうか い他なるたけ、同一ははいるくる神に世界はなりなか いたかられているまするといろうないるではでき まるうまと名はいないないってきれまたりまでいるというとうできているはいのでしてはいるはいのでしているはいのでしているはいのでしているというというではいい そのかりはながくというとううりくられて というかりあきるといくのできりとくとしかりははい を倒師ろうとはよるのかないとんでんろ ゆるはりとするはるはいるかなりは初れて残る 一切なるべくとうとうされとうと十ろともりときわら 深海にかられないっととんまだしゃかりあのくまと そうるべきのという人はんけれてきると合かと らばくれているというないというとうとう くるというところくろではなっていけのようかには おりくからかめなりいっち かからいるであれからあっと

めてきないというできてきないとれているとうできているのという とるからできないけれていますくるのとうなつくや いるんまれなめるなまくいくうくせなうかりものない けっちというれるというかりまうれるす すとにおいまくちいかいらのるようを執わるあった 見しからでからていたのと発地はあるというはある 京教 かり類倒るはかりあいているとといっといとうと うなかいってりるとうないとかってりはして真智 でたくるなくなるとうなっている めてはなるくれかめさまるとありとあるくれなる気や めるかり見せてきまるなければうろうろうで ないりととういわるあーさるなは今代は称をからなる 時くれてしまするとくをあとくなりそうわとかりる なしまっているとうないかいからからなっち しまかけられているというでんなりのところ くかかりのかくうきはけるいっちんときからいと を信かしてもしいかりなるなっちのまむと かりへ献して敬と方献るらときもちして あとかしまりとくはいのかくりていかれかる 日と日本大日

やそのしてるをはるしてるないとうとは世代人 道というなる想という動倒をせるうのでえばり そない 行うるとうなりでうゆせいつのかしからいち いっかくってんどうとうちかかのしままたいくく 我見ける見取りようれたかかりこうからまったん これかりかうするとを倒むつるなとうときをとるい ははっているかはれましと何かりまして想例なりい かいればありているからできてきかいるはかって ないっちゃけくを別し根でとれなりまころん例 すいれていているとうというというというとうからいいいける りのかりこうらきてくなるとれられいりのかっとのと地と ゆれて裏倒かりこうなからりですからのなるでした とういうなけれないのかがあるとうろんとうい 子と後情間をかそんと一心と体を一は真像も真変差 いくにことうて信いないとなりまで頼倒くの中まれ かんまかってしているとうとないなりとうない 一旦多了人 かんうまするというというというしていてり こちはかっていてくなりとしてるかいできれ をなっているとれるとれーではない いかかくてありてまれていますます ゆういからからななをから は験倒のかしょうのり真にしるる かんかけるちょうえきあるとう しまでけんらのからきれた



やかきて一切るの もいるるとなって 心不溢礼 てわらかそのけんが体をでするらの人をかり さいてきりまりる直るはれるはれてしているとない それからしるはいいとう はるけれる人がとですようりくごくついれなけんは たとうれてかり記録はれるかっちょう それないる裏倒とかりうんちょう をんざりせぞとかりなせというなり なっとてまるしたり かりきかのきか えていりまましたのは中でようのあっているの方の をなきだ一切ますかりなんり をなて過ぎて後神清礼しとはているとして ているてんでるかとるといてんぞういかいのでしかい ころいろれるけていかつどろんいろくいちりゃくいろ ふぬうなりれる やしずるいなからう あずわらそによるのかかっとう 後しれのてわやりて他の後ともうのつ て書いいるなれて西方は名せらとかり おうりをきずいとうでももくちろける からりつとさりり 思想一」わ 一きなりものとなっいなそろん うったりのようかくして一気でる ってを欲のゆるん類倒りつ しとのかう とあるのとは代為人人 ~格でなるだとるます わるい繋をとす ううる了類例と名 けてはした るちろけてきる

かんかりは世とときまかりといれまともからよ 心不失念 きいきのきれたまろうる める後のならしちしとってかってかられるめって やいかかりるとないるからきてくろんろうちゃうす かなうころうかりまと信任しるようんかやまりとき ではりとまるろうとなりますののあやすりいかかり かというからもくった他をはれていてしまっている ないりかりうなりいくれまるがけれのうけいいいある 同いる中でいけていなととといけてくけれるとは大 れてあるかくうりりゃくるうりかるといまる看像 接近年了は多とというまって 事了 そしてなられるなるとろうかけのかりとれ 神でありったいうことかりておおまりどという とすいうのうないれるとうからからいりいというはない るといううりゃけんともかんろうもありょうのしま くろうなるいくろうれていくりれままたのでんかったって のつてるるときしかとう てるる活れといなりとは他をなくとうなくとう りなないとう なからとかけろかなるういいつ いりからるましたしかきからもできてか そういろのはなまろうろくへったうちゃ 人ろれてあってしまること ちまとりく秋い

けてんかんかりでつきまるとればりるとうなりとうなりとうないとうないとうとれているというないとうなりと通ば といったとうううともなって 能力力と生化って、利用がえるなどではをある 今かのからかんなんくあるとうのとものねんなくれま 一月かってもとける自のはしてくうでする らきるの愛敬いけるうちもこれの思すしてから 身心無諸を痛 記さるは変とくしてもとくるいろうるこ 原核なけるうちのなんないないとうないとんとうというで そんのうまいなりしますとうりったれかしつとて らたりなんなくちゃうしょうしゃしてんかからのなりを保信 とめかけれいくいわううなは世るこれも意味 けんどうようしいりかのうよ船を気のといとに かんなりはないますって根して痛のかいかのかっ そのかけをわりのというはなるようとうるありから それのできなからう あのを痛ったうりかのととはれるけずし るとものからろしかります りくなくとしていいとうのい かとわりあるとかっちりくかりょ はないかいろかいろうんうと とないせるとはなりかいめ そういちますんのであったまたがよう 一内とおくとはくうかま ありつつき

さきるりりく口称を伸しくれるを痛をある。 大権教よろうりくを痛をいているのとあっち 春はなっていってけられる中でもけんとき の風でえれるべいじは年間とかり回されている 等のなってもまなりしてはだとなっちょううか いってあるるとなるとなると かい大学 ようけんくそのとするとりなりをけられている 党的一年天的中心中各种人等金班要震 めるともとはましてるりとはちまいまするり にからどうか かられなってきでとる体の難けり 9037 く渡られぬくせくいか 信からはてないますりとなかり天人のなる るれるとうにはちょうまるりせんかとその しせんとなり、あり、地ですとはたいうち まかりかちかくとなってはあるからく けきじんないのときくからのしまし くれなどうくる人はいろうのそを量初られ してそのとうちんくは連れましょういっと そうしていくまからあるりないかん なるの うないというとうろい 一分をななると may grand wis りんだけんない けかり西方将来 七といかかり

でしょうん 電いはくるないとしてのでは神をしているとしいい 那 よりる そとよろうう れ入禅全とといろは文字のうの海里を神 理観事観室観きしけらめからけりまかりまち なりから後取りてを痛いからといくい事」利 からすいるととで活動は出しているかんというで るとおいっかりを像る駅を一数いんぞうわりいま なったのではない 生神学本生神をしてくるのかあるかのかあり かなゆきますり生神上観禅を観想を観察 を揮きまかてんきまりできるけらみん うんとくきは果人いろうそ ての事後もあるのではなりあるでいるころ れてらといまちんくもとでうのわんぎううしまん りられてはまましてもたかんのかんごうわきい 定的りするんだ人はあり いない おいわるながらとかっとうかんというに ものまてど 気むくされかんざり なってりまするからおれば世界のはなる さんなきいた道ないいちのつうを書す とそののようなないられてきたの てそうでらるはなるからのではから きるといううかかかっ てきのとはなることではあるのと るまそんでいるかかしろうの ははれんずと勝気るれ 一き」に他一切 かりるとなる をはないるの く観想 くらせ る

えていてしているこうからとれたれるの アはくとかなるかでも関うりますようなでの の名とはなくとはほんでしてくろうでうったました かったこととであるというにははと同じいりかる 大大きり 車具でありせいは、大震之ではんと であれてりまとなんろくわりく想るちゃして神像 るかでようちき人は近くるとけるというもしるとう るうけりまったている教教とうなるというときは おかれるようちょうことを集後としているころ とれなるととかてまたりとはなるとれたとう ころうけらなんりとはおけんがりょうであるべろん なるなれれのかんずといいを三数よりしのろかんで とうかくかりまめてぬけかんえんときころとをを表れている とうののからとなってりなないとう 像といううくなさんきかりうかいく思かり 大きれる人とは一種教人をなる中人的体というれたい とないまろれないとうとう すらきべるりきては神はかんきうとので するやされないというに像本像でからとればかりき ようかでいかといけっかんにあかしかるこくかくらか うくすちょうかりもくなるとでを成大み続けれ かながのかなうとまれるとはなの はたちゃって やれやう

ぬかりまって かんざいまれ せったましてかりてんとうとうとうと かんごうそうと するかできてをすかりてもいまれかりなったなまち けるかんでするかり神をはらればは多く のちるなくなってりっていい すかってきるとれないとうはあるる意思 ようかかく ん体化いつかりかれりのとい いりともしまかりまのとんいる かとうくなるにうなりるからのなとう りきん りちゃべる書 岩ろ あけるのですれる自己をなりからりのだろうが をそんですのなりでしかんという で去せる傷いかりし きしてす のと教心でいたが Brand. 親想のでんととはかは生とうなりると くうろうか とうう からいういろうか なるまったかんいかりもからつときの はないきるしといるをきかりょうまとい くなっていけんかりまったりれるいかい しいされかんのわんざっけっとなくいうさ うしいううりゃく生神からろうちゃ うまんくといきのめている も五 代でいかかりゃくかては後の うりないな くいとう相合ともうだら の生神 かんちあという はなっていりょ てきてき かしてくらんかり ろかんして」中語 からないとと理る 一大変を さいかかか とうべかは

多根 を自分 3 かろしま したの あまべき 几何 j 会を移 ろいろ べちごう の対対

すけをからからるられたって をしてくるうなるとをなっているとしてはいるとうないとうないとうないとうないというできないというないのであるというできないというないというないというないというないというないというないできるのかられているとう アイボーすい やしるできているかりるないのとまると何の えいろう 十重人理機の九歩八巻事のとういうと思る 他何と感了と水想をころできて水とはなる 意思しなっていていとはを掲載さりもわや かんりの果を後かりかり上観他行けなのう とうとうというとうのかったろう 神をしていくいうのはの神をありかをはかく のなけるのちゃとはいいととれたちちゃとてる かりとあいくを返れているかりついたを招と のなったを送ばのはらりからあってんり るるはれるはとっちらることってかけないというに るからて見かけるでする るけないようはううつかけること そろからりまりさる 後城へのかりなりを接近年より想飲い くなっているのかりとのかくるとうなくろうでする \*原式報·訓抄台 とうなとでも動しないるりませるという 大題意煩性電光電ののしまれ

たつひいろうくときるきざめれといういっとかって かりょうなりかけんすと神をしている からくまるの神としてくというりとは独特を そのなりまれいはれまっちょうる そうけらかっちゃくうをまてあるかりとくころん いとうこうかつかんというかりましていまる ろうされるあってはませてりるねんかのとかるらと あいろうとなりとうないはなれているないとうちょう らいなんともちょう人いなとうしく そいろ人で事物のよう又催化の人かり又事相でき 事となるかかかりはらめをなくれる んろけてきしぬくけるなりはのはのまれを相ろ るがはいるつうくのこうとでいてきべいとれている ことをほうとんばすいいからかった のんとうまれてくどうとなるがんでいることも すれていいのうまやってきりる情だってていく そうかとんかりもうれるかりそり かいかくいのしますり 一次のないりんでもつるもうこうらまた を被うわりであっているというともつける 大日子でのからる国信人を得るう 全ないとう うりょうる

て事相 移からかってりとうなき提布できてるるの あるるかが 乃須你で信乃世界が信くれかりかっまうせるとこと ながない 十万後七十 西省十万代十万人 見からつりるのとあわるのうます はあきでかりまのでは十万倍七八分であるの」 なるとうけんとうなっていまれるを得 发写 のつのしくからいい らの通性を 経り い事理を見れなりそうです はしいかがう すってはくろ地自己の程ますのるようの のかり、変活場と かしるうとというとう るっているではなんは 一下門 とうなけんときでを境相應する のあて目れるえんかりまするころは てといるといまりのは彼りついって りをする方法方方法 日本を伸を変数を乃信の今年は るをア くちゅうまかり 3 るかろう りからめてま 30 七九万了る十一万了るわ うとまると 次のの は信んわっく な神宮より 3 です 格遺傳 からかり変に なりない

月 なと伸展しのもろうれます 3 んなきで世神とすべくい らっていることいる一個は道理 うわいるりゆう りどらいてかまから かってきるのかくるをけるち 色ぞく るうもうかん からいっていいろうともか 天他自然の世名かくううに思いてきてくる さんさりんなりんか いてもれてりるわれるな様初 ゆくまうねかりかなはくらくてを熱 て一名るような金質 りでするよう道理をきめく るというんや自己人子はあってる ちのえれるうなく事かっと世間 るなくまとないちんをな しかろうり いるか 北きし いてうどろう けるか るのかでは るかくとう そできのわれる 八等之人 しまり ける後 TO STATE OF THE PARTY OF THE PA てもなりかり 一起るとは られる十つ日の てないている 3 かなかえ をうな をしててで りいかえる 坐禅 うるのと 一個人と苦口 くまるすい かんともい されている し万

根える道とうちゃんあり 4 の谷がいわきていまっていのかつかんりんできるながい からとい られないととうろくするかけるよう もわりぐる 世间父生活 れめとうていけ あかっちなんかけとうかりを 都为 次となってくってくろう 引きり移 自分と んのわ う等えぬえのはからり 神でんりなるはかいりつか 3900 がおいま ためんまりを見るないん 2500 地気果満 かとういけい みげい神 50 りを持ちんをあるうついれたり いからのかしているいできない 大大は陸を乃於かり なるうろいましたとく な事 りまる神をして している作品 てきつはよ かしいかる 人生 いききりそう なるとすい自身とあん 文子のうろいでんとう そようかり くいちんどう なるりという なる ま 乃野紀本 やあん くのあろ くろ類を おるよう とうか くわる

をもろうり をうかはんけるいとなっているのではあるのをは さのかろうちんかっ ちってかりそうちられ相の限がものなっ 食一年大多多な りとののつるであるかく とうが関うする いいまる 3 いるか いってんっそのす なんわ ものうべいてんさくろのじくある そうそうていていてせいれてん 多いっとのいいます るそのい いかとくえぬいるりしょうのいかいろ れの人 の併とい五代 けれからろう 大後の のするではから ろするほうかりまませる く始命を他のよれ作機者勢至 いるのといい用か そうわしる 一中の全事行 うんろう うなはちょうののか りですべいんると十分はん はんとうから 別せてありとつ 後のはなかている。佛 とやとかけく今蓮をさ くるとうもつかりを使の 移 するれずるると り一月以事りぬ あったしかっと され となる事が るかって うるわ のこれ 133 3



**整願文和談抄下** 利動機集了九小 わりてるくてすりから ちとかんとすけかりうちあかりがん 一品社生 いは付 集工信七 かりきとす のとがないわしてあるでんるというけっ くてあきたかそめなりるまつうかんかん りるとそうと他かをそのむまなりれ いっとうてかつどうんをあけむとまは 報原文本部や中 とあるけをはてもしている とあると りなっのくううはけてとうる 一社はといんとうろうんとさ さいというなまのらあいとおけれていたれる 後名からろとはくわぬ かすできたっつろかり ていのあざて あかのりけるする そうれている かられるけるようとるを くやりけやろうとか 丁万をすているかりけるい を添かり でくるでとく 堂無事子集 しかまとうろ Rag

後年は事かりかんのとうけしせいといる れてとかんはませてくりながき事かかろうんと 少なかれより風ないんませんというかけるでき でいるすい 是人 かる 養養す なるまれていたけれているりいのしてき わぞり 1 そうわり 195 る何と りまてず り季提布等は そりずん 大学 らの核じて からりかりとき十七億万千億万至七百年後 で自己するかのつまりす 私地なるはあからしまはぞくからり なとというかの中しいはいだから 松をなる人は知るうり 後ろ しついまでもる減り 理生活 りなって随きればいかり 一門ようなな ねんとくを作らといすのうては様でう 大了 くるかったいう -八子之地」成体 一人の後ろうれるとういて えち かり二いるの限也證徳はけられる 是它是佛 やりさいまとりけてるりは後のこう いま でうちのな佛得達乃果を とかんちかをある であり てでするかとは得せる かったれーナガ俊利 をりまるとけるけるける いかりとう いずという意様ろう ちかりる海大 一大般涅槃和 といる水路内の をなくか 経事るおめ いうろくなり 連犯化生 ていき人 とろ

世自在王佛ろすくってませるものであい かいあつるかとのなるなりはとうないまるりたらの 荷彌陀佛園 としてりして多ろうろいわ 行かりまる人を与る師と書 じるとう 養産之とくいせけん き私かいわけいしまれたは ゆし物作の得しまれ世界の中します七億かり きの方をできまるとうろうちょうちょう 経七などの楽り すをゆうきかり で作りなくしてないというないという 八利は外行 けずれまうなったいちまんい 体の倒まったいであ りをあるありてはないようしょうとれてい らあり松む集意慎和高 題子龍からんきを内断 よくり大ふわりか一十二八八八八次を物手り 学的はなやとくろろきえて かしてののかりいりくを生気王を 1 Semple Many りを成れわりてむくざとなってはけ やりあまをもつだろし 0 りつのの 的社会樂世界から様を 13 ういいりはけれ一名は るなるとを見るした からが循 があって 工工 了著機處脏行 て喜欢少後から ましせるだけ 100 とかぞ 息收多樂 ころうと りでき 極王

うなではるまで何るけるのでするかったくろん でをからいいいいからりってうり 大師い何体ではるまかかっまして 大人のなるとからとなり 細からいつ切ろくや とるからよいゆうけのしではとれんどううろうりついと 到彼國で そうじろけ文字のうろいろ風 アタケをあった るを見ましたりをいかりわしたるといるとうと かのはるときえめそめ他ろうらとあるた かんりんようわして神風り おもはりかりきれないかうるもって変えき るとうとう 花伸とう いるである かいんとんかりとはりわらりりましるとは直言さ べってりゆくらればうりたとうですなり作や るを見えてとのいいめてるあるいけるるとなので てあかわいはんとろん 外ですのいくいあればかりょう 名とれるもう りぬうとをはれるままれるう てを見るしるない と日本女子 とうちのめてかっているとはなるいう りりまさ大台摩訶上観けるか やりのりもつんなりとであるからも 力のう うちのわれかりまとは今かり くかからか りま らかのけ いかり るかくくうかくるつな くわりくと称わずの るる道大师は私 かれる 子を発生し真空 がりという いかりものる

さのかってきとはようなとういういかれるあって けなけのえをゆかう きいきりてもまりしてりしまるか めるうれるまのはようううでき 移へを かん見佛得道はかろうやしきいなりはるなる かりるとなりのとは佛をいくべる お返れないとでは帰 物をというとうかりかかのと思りきぬ いっていりのはってっともりてもれられからるのいっとく 他的祖夫眼通名命通了中代太通子的八十分世 ついうくびりしているしまたく同的同体は死 んがくとかう 3 かず それであるかします へんなのまけるかと ゆもいめ くかしむしょうなるろはつするだかん ちんのかりからめてはいろろけけ そのどんわりました眼通して万十億 おからいまきくいを置かすって 夏年のゆきといろとかけていかりとうと とうじょりなるのちあいゆれるかけ 場のくちろうれるなるとうりる るといううかか きくかのうちっとかうかん なるないととうとうてかろうつき おとういる もかりとすり う目をしたいっとあってたの るかく ありてきにち くてそれるか ずななる り不必称し されなう

りえて

放請者根生 金易良好 き とかっちり を動でもいす てきる てかる 1 Brand んない しまで 3 るかり るかぞうち 移 とういろけか 6 る名は くととろう んってめる富者というと今代名けの No. 老杨 へのもつ 红色 えるとなり 何なん むる とをまりもちょう りまる風 はるなけり やのくる る他に通のうろと のうる さいみとなり かっても というともち 3 よろゆもか さついかか りまる人との世界の そんそんけ 383 人人 うるだる ないとせ っている 師鱼

らんなるるいやうろうとはさるのでうろ でいるののく世界はきて産室とうれしゃいいる があるないますりゆう 集」随着すけのからて 根はあそれりかいあつればりれ ろうろう 華巌行教授 からくううのれるけんなりかりかのからない かいらろうれとはらりたっとうりをでき 虚室はあるくころの虚でろはくれずわしてかるの 安はるるのかけるけるのるいからかめるは 京後の虚室は男といすりをちょうであり あいますしまくるあくけるい てなれるうりくこういなわせてかりまると いんでするとあるいかれるはるかららんとうり らんかもれなりるのとうんでなりくとない産室では のですくりなきでかりもしろうとはるいれ からはきないるいまあのはのい 佛面よりかくなまりありとおうくせる なるとかのあときくろ いっとはらのちゅくしまっていのなとしはっ 帝原文和 されて 東一口を女下 あるけろきなかとくつ る後は見るい我行は になったとうなったかけ 人の人をはるい と書いる とえるら あり

受願已至心故中阿彌陀佛 はなのとま も ぬからが得よいよう かか 脱号 までのからかるますりいちで集後感 落佛林楊のちろうう をかかくうりかけっ る大阪 といけられいすれから なかいまいうまる けるはんとうるとういろん するいかろういとから 利級かぞしいこれつきなくるあいっとう からめるいまさら んが八正看飯中八大震乃正翻發飘下 くきゃ があるようというなって おしる直奏る私人 かまかつ 七多 きない まやかり そいけぞう 十世を いる誠の名家家 けるるのじかりを発す 金級でわ るうけくな むな集る 界了記 紀楼 き次 かろう さろする世界 ん正気をも そのいまうり て飲例強感 あるりゃう うりそざる かかから 600

兄禄七甲成年 孟春吉日 りるをしていれ 山形屋吉兵衛板

